SERVIS™ Drawer Liftup 17inch LP Series

[FD-5300MT]

取扱説明書

FUJITSU

本装置は､クラスＡ情報技術装置です。
本装置を家庭環境で使用すると電磁妨害を引き起こすことがあります。
この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。
VCCI-A

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用等の一般的用途を想定して設計・製造されているものであり、(1)原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御などの、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途ならびに(2)海底中継器、宇宙衛星など、極めて高度な信頼性が要求される用途（以下「ハイセイフティ用途」という）に使用されるよう設計・製造されたものではございません。
お客様は当該ハイセイフティ用途に要する安全性ならびに信頼性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。また、お客様がハイセイフティ用途に本製品を使用したことにより発生する、お客様又は第三者からの如何なる請求又は損害賠償に対しても、富士通コンポーネント株式会社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Red Hat および Red Hat をベースとしたすべての商標とロゴは、米国およびその他の国における Red Hat, Inc. の商標または登録商標です。

その他の製品名等の固有名詞は､各社の登録商標または商標です。

All Rights Reserved, Copyright © 富士通コンポーネント株式会社　2012

目次

1.はじめに 1

1.1　表記規則 1
1.2　梱包品の確認 1

2.重要なお知らせ 3

2.1　安全性 3
2.2　廃棄について 5
2.3　本装置の運搬 5

3 取り付け 6

3.1　フロントブラケットの取り付け 6
3.2　ガイドレールの取り付け（ガイドレールにタップがある場合）.... 7
3.3　本製品の取り付け手順 8
3.4　KVM スイッチの組み込み 9

4 ケーブルの接続と取り外し 11

4.1　ケーブルの接続 11
4.2　ケーブルの取り外し 11
4.3　電源ケーブル抜け防止タイラップ取り付け 12
4.4　PS/2(USB)ケーブル接続 12
4.5　ポートの接続 13

5 操作 14

5.1　本装置の操作 14
5.2　モニタの調整 16
5.3　基本的な調整方法 17
5.4　解像度とリフレッシュレート 19
5.5　Hot-Key SW の操作 20
5.6　キーボードの操作、LED 表示及び Reset SW 20
5.7　マウスの操作 22
5.8　マウスの収納方法 23
5.9　KVM スイッチをご使用の場合について 24
5.10　本装置の格納 24

6.本装置のお手入れ 26

7.技術仕様 27

8.トラブル対策 29

8.1　画面が表示されない 29
8.2　画面調節ができない 29
8.3　画面がおかしい 30
8.4　オプティカルリフレクトマウス、キーボードが動かない 30

1. はじめに

このたびは、サーバ用ラック搭載 SERVIS™ Drawer Liftup 17inch LP Series（以降、本製品または本装置と呼びます）をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本製品をお使いになると､ラック作業空間の効率とサーバ切替機能が大幅に改善されます。
また、コンパクト設計のスライドモジュールの採用で、従来のソリューションに比べてより広くなるスペースを別のコンポーネントに利用できます。さらに、オプティカルリフレクトマウス(以後、マウス)採用により、操作性が格段に向上します。
17 型 TFT モニタの解像度は、最大解像度 1280×1024 で、最大表示色 1,677 万色の表示が可能です。
本製品に接続出来るサーバは､DOS/V(PC/AT 互換)機、SUN および UNIX サーバです。
本製品は外付けで 4 ポートの KVM スイッチを取り付けることができます。
*KVM Switch : Keyboard Video Mouse Switch

1.1 表記規則

この説明書で使用している記号と文字の意味は次のとおりです。

⚠注意　この表示を無視して､誤った取り扱いをすると､人が障害を負う可能性があること､および物的損害（本装置またはサーバの損害など）が発生する可能性があることを示しています。

Point　この記号のあとの文書は補足説明､注釈､ヒントです。

- 文頭に数字（１，など）がある場合は､順序にしたがっておこなう必要がある操作を示しています。
- 参照する章のタイトルと用語を強調する場合は､カギ括弧（「」）で囲んでいます。

1.2 梱包品の確認

次のものが､梱包されていることをお確かめください。
●本装置本体　× 1
●取扱説明書（本書）　× 1
●電源ケーブル（2m）　× 1
●保証書　× 1
●AC ケーブル抜け防止タイラップ　× 1
●フロントブラケット×２、フロントブラケット取り付けネジ×４
●PS/2 ケーブル　×１、USB ケーブル
●KVM 固定金具　×１、KVM スイッチ取付けねじ　×４、タイラップ　×１
(KVM を本体に組込む場合に必要になりますので貼り付けたままにしてください。)
●ハンドルバンド(本装置に取り付けられております)　×１
●耐震ゴム(本装置に取り付けられております)　×１
（保証書に必要な詳細がすべて記入されていることをお確かめください。）

購入時の梱包箱および梱包品を保管しておくことをおすすめします。別の場所に移動するときに必要になることがあります。万一、不備な点がございましたら、おそれいりますが、お買い求めの販売店または弊社担当までお申し付けください。

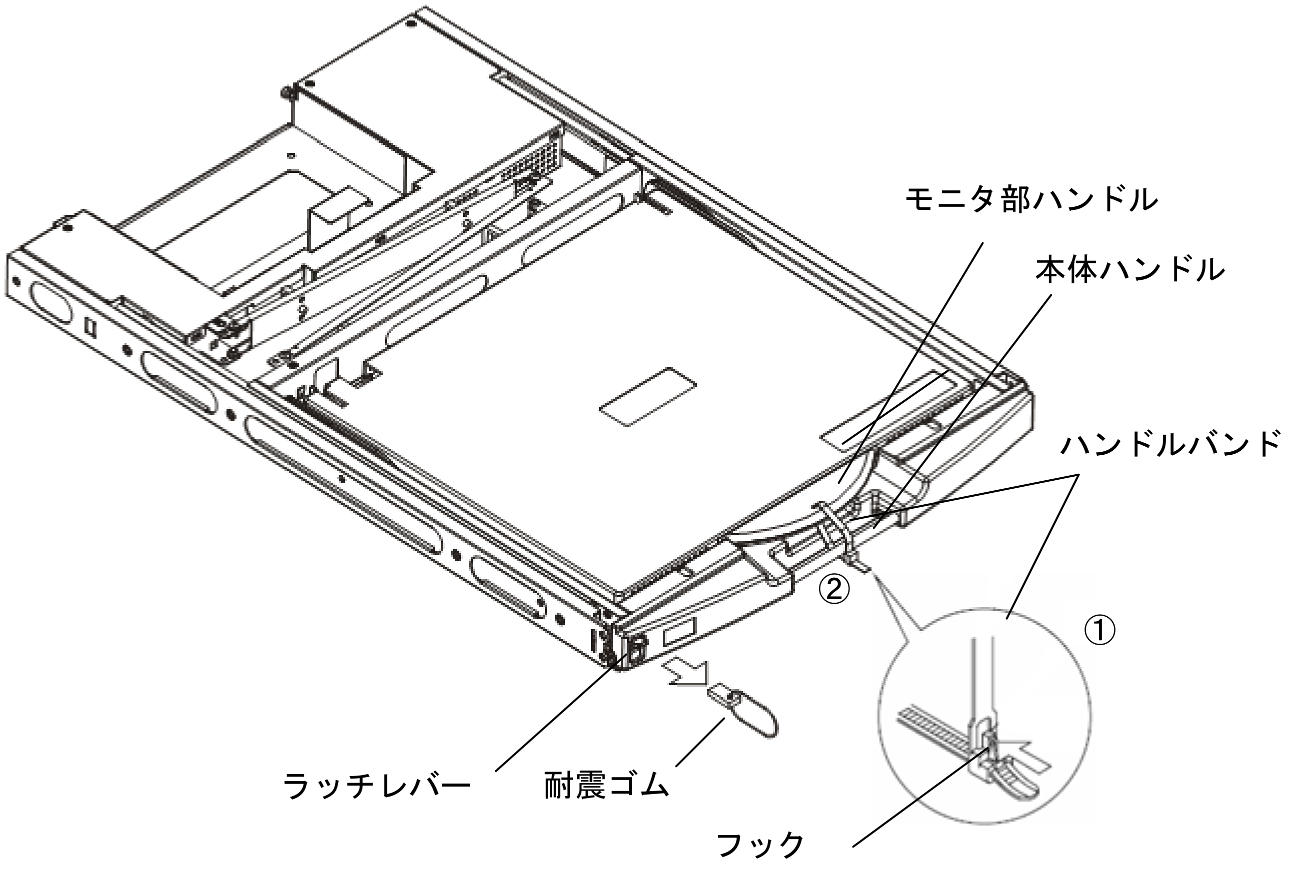
⚠注意

・「重要なお知らせ」の安全情報に注意してください。
・梱包箱から本体を取り出す際、モニタ部ハンドルを持たないでください。モニタ部だけが開き本体を落とす恐れがあります。

● 開梱時は本体に損傷がないか、配送品を確認してください。
①ハンドルバンドのフックをつまみ、ロックを解除して引き抜いてください。
②本装置前面左の耐震ゴムを引き抜いてください。

Point

・ハンドルバンドは､ラックの移動中に本装置のモニタ部が開閉しないように取り付けてあります｡本装置をラックに取り付けた後も必要になることがありますので、必ず保管しておいてください。
・耐震ゴムは､ラック取り付け時やラックの移動中に本装置がスライドしないように差し込んであります｡本装置をラックに取り付けた後も必要になることがありますので、必ず保管しておいてください。
・耐震ゴムは､ラック取り付け時やラックの移動の際に必ず取付けてください。



耐震ゴム引き抜き図

2. 重要なお知らせ

この章には、本装置で作業する際に注意しなければならない、安全性に関する情報を記載しています。よくお読みのうえ、正しくご使用ください。

2.1 安全性

⚠ 注意　**安全上の注意**

本装置は、事務オフィス環境で使用する電子事務用機器などの情報処理装置に関する安全規格に準拠しています。ご不明な点があれば、お買い求めの販売店または弊社担当に連絡してください。

- 本装置を運搬する際は、衝撃や振動を避けるため、購入時の箱か同等の箱を使用してください。ただし、変形及び破損等が有る箱は、使用しないでください、本装置が破損する可能性があります。
- 本装置の取り付け中と使用前に、「技術仕様」の環境条件についての記事と「取り付け」の記事をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。
- 本装置を寒冷な環境から暖かい場所に移動すると、結露を生じることがあります。装置が完全に乾燥し、周囲温度とほぼ同じ温度になってからご使用してください。
- 地域の線路電圧が本装置の使用動作範囲内であることを確認してください。（「技術仕様」と本装置の型式銘板を参照してください）。
- 本装置の電源ケーブルは特別に認可されたものです。改造等は行わずにご使用ください。感電、短絡の原因になります。
- 本装置の電源ソケットまたはラックの電源コンセントの周辺は、プラグの抜き挿しがすぐにできるようにしてください。
- ケーブルが損傷しないようにすべてのケーブルを配置してください。ケーブルを接続したり取り外したりするときは、「取り付け」の該当部分を参照してください。
- 雷雨のときは、データケーブルを接続したり取り外したりしないでください。
- 本装置の内部に異物（ネックレスやクリップなど）や液体が入らないようにしてください。
- 緊急の場合（筐体、部品、またはケーブルの損傷、液体や異物の侵入など）は、ただちに装置からすべてのケーブルをはずして、お買い求めの販売店または担当保守員に連絡してください。
- 本装置を修理できるのは資格のある技術者だけです。資格のないユーザーが本装置を開き誤った修理をおこなうと、感電や火災などの原因になることがあります。
- ケーブルは強く引っ張らず、必ずコネクタ部を持って抜いてください。
- 体調の悪い状態でのキー打鍵や長時間の連続キー打鍵は避けてください。
- 濡れた手での使用は避けてください。
- 濡れた手でコネクタの抜き挿しをしないでください。
- 本装置の上には、液体等入ったコップなど不要な物をおかないでください。

- 改造または修理をしないでください。
- 警告マーク（稲妻マークなど）が付いている部品（電源装置など）の分解､取りはずし､交換は､資格のある人以外はできません。
- 「モニタの調節」で指定されている解像度とリフレッシュレートしか設定できません。それ以外の設定を行うと、モニタが損傷することがあります。ご不明な点は、お買い求めの販売店または弊社担当にご連絡ください。
- 周辺機器用のデータケーブルは､干渉を防ぐために適切な絶縁処理が必要となります。
- 線路電圧を切断するときには、設置電源コンセントから電源プラグを抜きます。
- サーバを清掃するときは、「本装置のお手入れ」にしたがってください。
- 本説明書は本装置とともに大切に保管してください。本装置を第三者に譲渡する場合は､本説明書も譲渡してください。
- 本装置を引き出した状態で、脚立代わりに使用したり、よりかかったりすると、ラックが転倒する可能性があるので危険ですので､おやめください。
- 本装置を引き出した状態では､本機の角などにぶつけると危険ですので十分注意して操作してください｡本装置を使用しない場合や本装置以外のサーバや周辺機器など操作する場合には、本装置をラック内に格納することを推奨します。
- 本製品には有寿命部品（ＬＣＤなど）が含まれており、長時間連続で使用した場合、早期の部品交換が必要になります。
- 本製品を安定した状態でご使用になれる期間（耐用年数）は５年が目安です。
  ※１日８時間で月当たり２００時間動作、使用環境が２５℃を想定した場合の目安です。ただし、有寿命部品を除きます。

⚠注意　ご使用上のご注意

ご使用の前に［ご使用上のご注意］をよくお読みの上、正しくご使用ください。ここに記載の注意事項はユーザー様への危害、財産への損害を未然に防止するための内容を記載していますので、必ずお守りください。

- 各コネクタの抜き差しはサーバの電源が OFF になっていることを確認してから行ってください。また、静電気にも充分注意し放電してから行ってください。静電気が貯まったままや、電源が ON のまま抜き差しすると、サーバまたは本機の故障の原因となる場合があります。その場合の故障は保証対象外ですので、ご了承ください。
- 本装置に接続できるサーバは、DOS/V(PC/AT 互換)機、SUN および UNIX サーバです。但し、各サーバは以下のキーボード、マウスコネクタ及びモニタコネクタを装備した機種です。それ以外の機種ではご使用になれません。
  ･DOS/V　：ミニ DIN6P メス (PS/2 キーボード、PS/2 マウス用)各 1 または USB
  ･SUN,UNIX ：SUN MD8(ミニ DIN8P メス)または USB
  ※モニタ用コネクタは何れも Mini D-SUB 15Pin メスです。
- サポート外の特殊仕様のキーボード(プログラマブル／ワイヤレス)／マウス(ワイヤレス等、専用ドライバ含む)は動作しませんので、適合するものをご使用ください。
- 本装置のキーボードコネクタは PS/2(6 ピン ミニ DIN メス)用、または、USB タイプ用です。ただし、特殊仕様のキーボードは接続できません。
- 本装置のマウスコネクタは PS/2(6 ピン ミニ DIN メス)用、または、USB タイプ用です。ただしシリアルタイプのマウスや特殊マウスは接続できません。

- SUN MD8 タイプのキーボード・マウスに接続の場合は別売の専用ケーブルが必要です。
- PS/2 ホイール付マウス等のスクロール機能を持つマウスをご使用になる場合、サポート外のスクロールは、正常に動作しないこともあります。また、サポートソフトによってはスクロールが正常に機能しなくなる場合があります。
- キーボードとマウスのコネクタ(PS/2)は同じ形状ですので、色等を確認し正しく接続してください。無理に差し込んだり間違って接続すると、動作しないばかりか故障の原因となる場合があります。
- コンソールのキーボード、マウスと各サーバの設定は正しく設定してください。設定が間違っていると正常に動作しません。
- 各ポートのケーブルは、同じサーバ内で接続してください。モニタとキーボード、マウスのポート番号が違っていると正しく選択できません。
- DVI(Digital Video Interface)対応ディスプレイは接続できません。
- 本装置のモニタ以外に接続するモニタは、マルチスキャン対応のディスプレイをご使用になり、解像度を正しく設定してください。KVM Switchがサポートする解像度は、1600×1200、リフレッシュレート75Hzまでです。また、ご使用のモニタや解像度の設定によっては切替後表示がずれることが有ります。その場合はモニタかビデオカードで設定してください。
- 高解像度や接続環境でのゴーストやニジミ等の画質劣化は、モニタケーブルやビデオカードが影響している場合が有ります。また、ディスプレイとビデオカードの組合せによっては、正常に表示出来ない場合も有ります。ビデオカード等の接続環境を変更してみてください。
- モニタケーブルのコネクタはMini D-SUB 15Pです。コネクタの向きを確認し、固定ネジで確実に固定してください。確実に接続されませんとトラブルの原因となります。
- カスケード接続は当社製KVM Switchだけで行なってください。他社製の切替器とは接続できません。
- カスケード接続数はマスターも含め最大２段接続です。3段以上の接続はできません。

2.2 廃棄について

本装置は、金属、プラスチック部品および、液晶蛍光管の中には水銀を使用しています。廃棄するときは、各自治体の指示にしたがってください。

2.3 本装置の運搬

⚠ 注意	本装置を別の場所に運搬する際は、購入されたときに本装置が入っていた箱か、衝撃や振動から製品を保護できる箱を使用してください。運搬処理がすべて完了するまで、開梱しないでください。

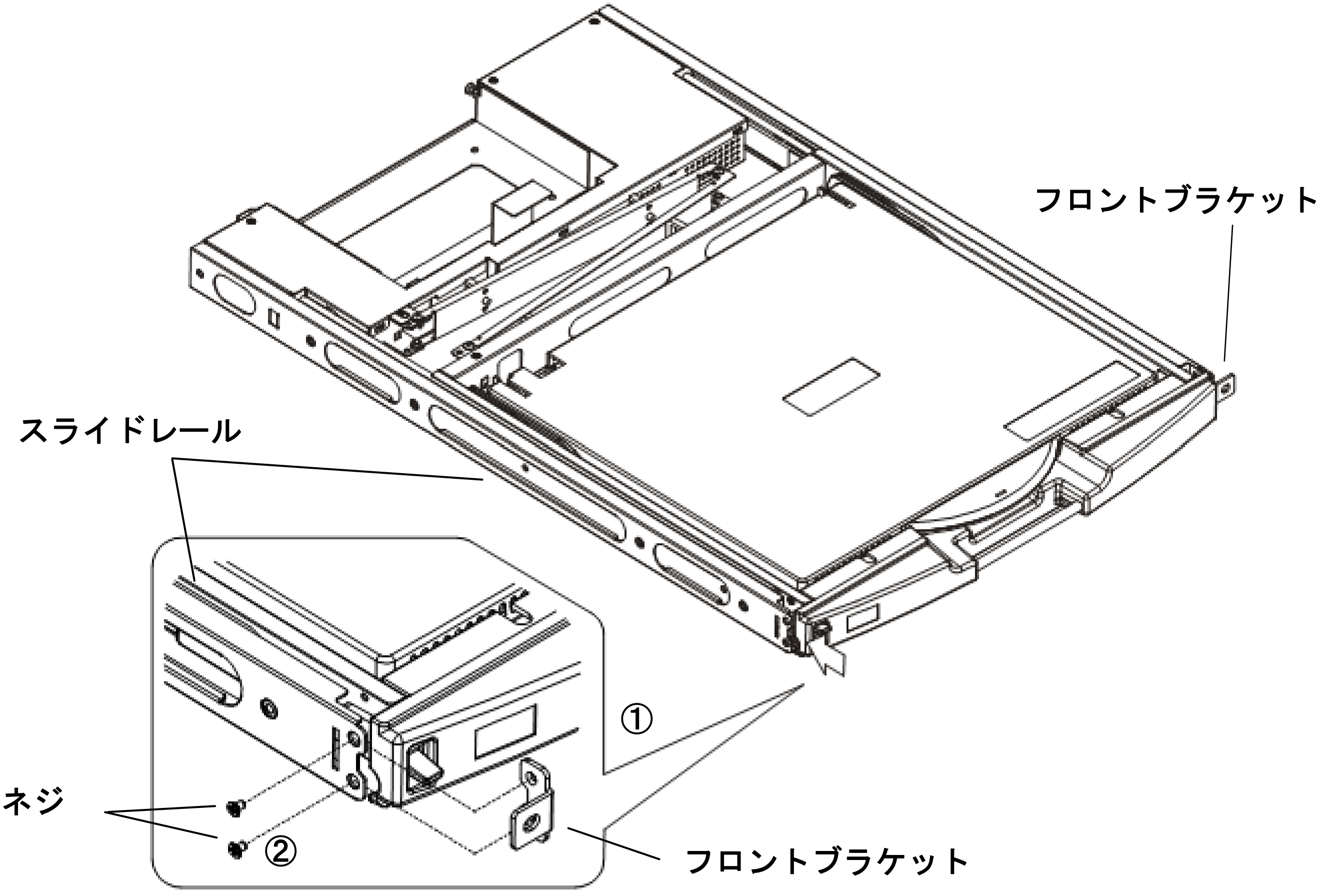
3 取り付け

⚠ 注意

- 「重要なお知らせ」の安全情報をよく読んでください。
- 本装置は、設置環境を守ってご使用ください（「技術仕様」を参照してください）。ほこり、湿度、熱を避けてください。必要な場合は、取り付けを２ 人以上でおこなってください。
- 本装置とガイドレールの間に、指や手を挟まないように注意してください。

3.1　フロントブラケットの取り付け

① 本装置の前部左右の本体とスライドレール間にフロントブラケットを入れます。
② スライドレールの外側から2個のネジでフロントブラケットを固定します。



フロントブラケットの取り付け図

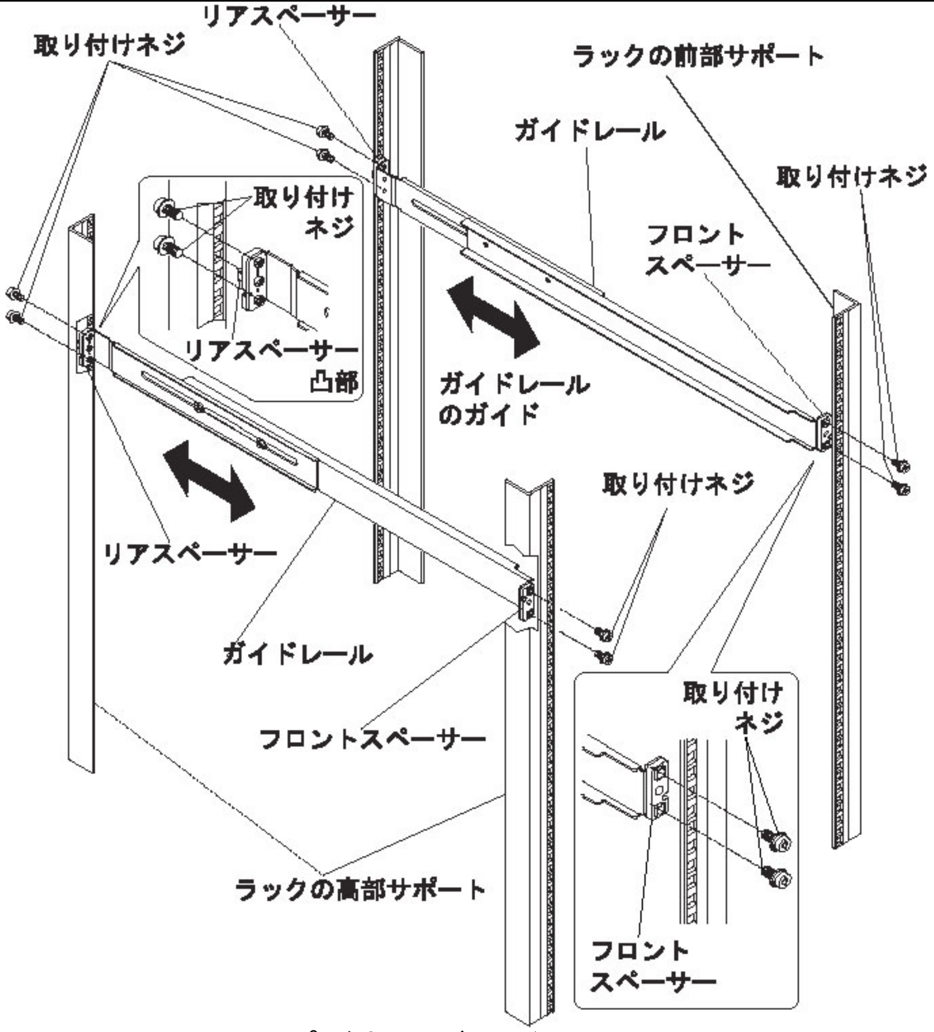
3.2 ガイドレールの取り付け（ガイドレールにタップがある場合）

Point

ガイドレールは、本装置が載せられるように、ガイドのある方が前方です。ガイドレールにタップがある場合は、ラックのサポート内側にガイドレールを取り付けてください。また、ガイドレールの仕様により、スクリューホルダが必要ない場合があります。
タップがあるガイドレールの取り付け図を参照してください。

① ガイドレールのリアスペーサ凸部をリア側のラックサポートの穴に入れます。
② ラックサポート外側からリアスペーサ上下の穴を取り付けネジで固定します。
（左右ガイドレールの高さは同じにしてください。）
③ フロント側のラックサポート内側にガイドレールを合わせて、上下の穴を取り付けネジで固定します。

● 他のガイドレール取り付けについてはガイドレールに同梱されている取り付け説明書を参照ください。

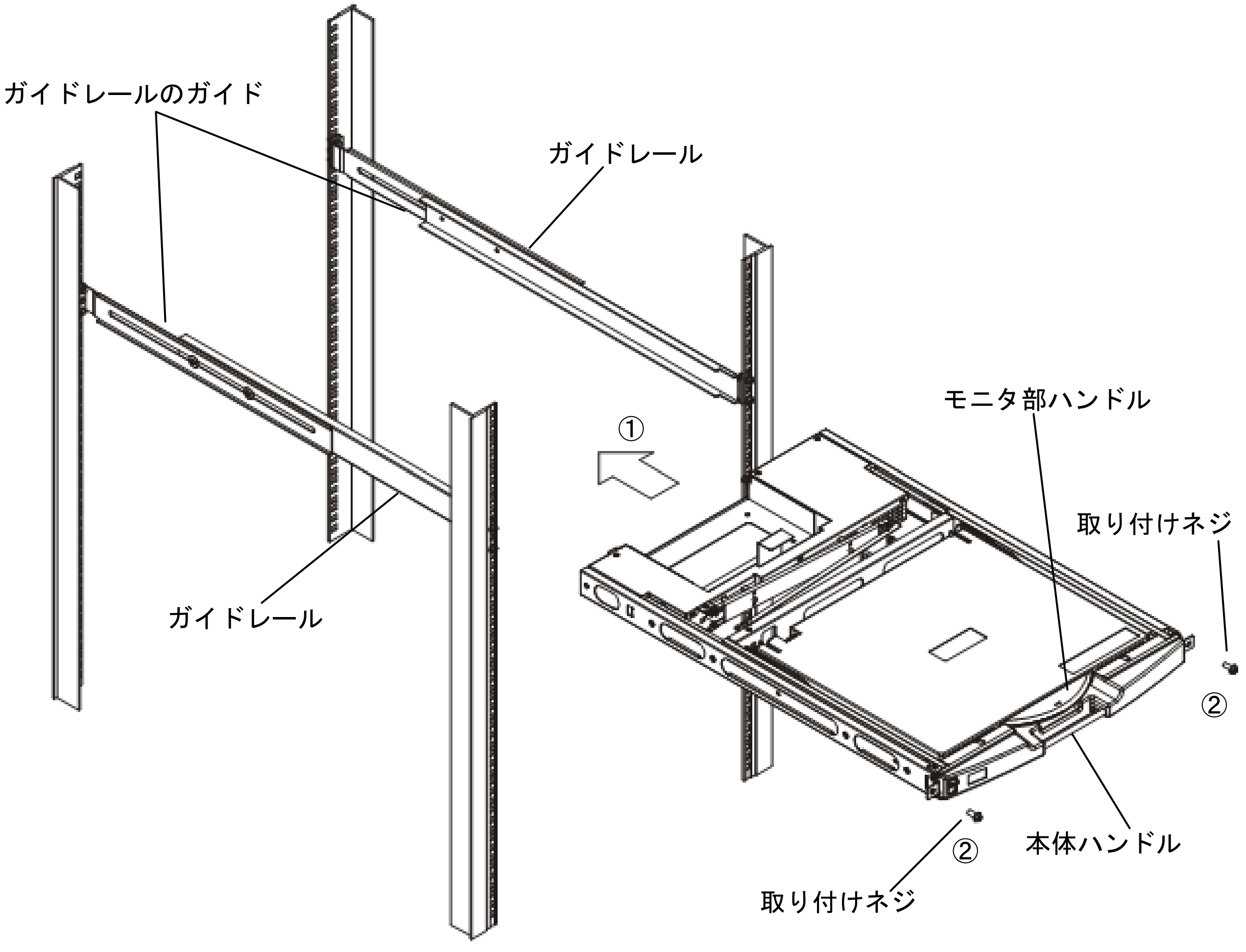


タップがあるガイドレールの取り付け図

3.3　本製品の取り付け手順

⚠ 注意	・ラッチレバー[5.1項参照]が解除されないように注意してください。ラッチレバーが解除されていると本装置がスライドするおそれがあります。 ・ガイドレールに本装置が入らないときや重い場合は、２人以上で持って入れてください。 ・本装置を持ち上げるときはモニタ部ハンドルをもたないでください。モニタ部だけが開き本体を落とすおそれがあります。

① ガイドレール前方から本装置を入れます。
② 本装置は、止まるまで押し込み、前面２箇所を取り付けネジで固定します。



コンソールドロワー取り付け図

3.4 KVM スイッチの組み込み

本装置に組み込み可能な KVM スイッチをお持ちでない場合は、4 項「ケーブルの接続と取り外し」からお読みください。
なお、組み込み可能な KVM スイッチについては、担当営業員にご確認ください。
KVM スイッチのコネクタ接続は、4.5 項「ポートの接続」を参照してください。

⚠ 注意

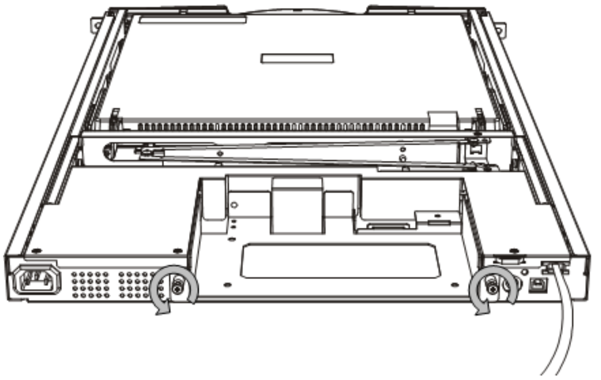
- 感電やショートのおそれがあるので、本装置の電源ケーブルが電源コンセントに接続されていないことを確かめてください。
- 落ちたり、倒れたりしてけがの原因になりますので、本装置はしっかりした机の上などで作業してください。
- 本装置内部には、高電圧を発生、蓄積する部分があります。必ず、放電を確認した後、作業をおこなってください。
- 金属製のエッジ(端部)部で手などを切らないように注意してください。
- 破損の原因になりますので、内部に異物（金属片・水・液体など）が入らないように注意してください。また、必要のない場所には触らないでください。

Point

・本装置をラックに搭載した状態で取付け可能です。
・KVM スイッチの取外しは取付けと逆の順序になります。

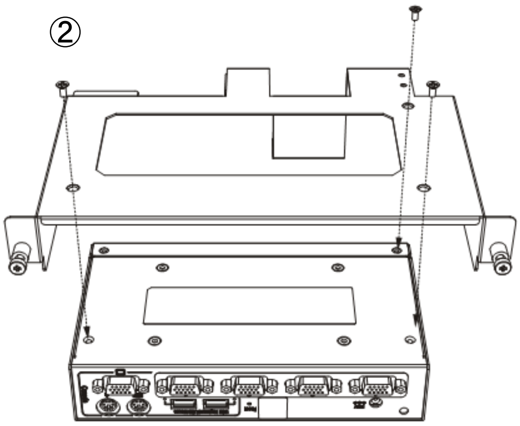
① 本装置リア部の KVM ブラケットを取り外します。
② KVM スイッチと KVM ブラケットを逆さにして、添付ねじにて固定します。
③ AC アダプタを KVM ブラケットにスライドして組込み、KVM 固定金具を添付ねじにて固定します。
④ DC ケーブルを束ねたまま、KVM ブラケットの隙間に入れ DC プラグを差し込みます。
⑤ ケーブルクランプを取り付け、AC ケーブルを一巻きして固定します。
⑥ KVM スイッチを搭載した KVM ブラケットを装置リア側に組込みます。
⑦ 添付のナイロンバンドで AC ケーブルを本装置リア部に固定します。

①



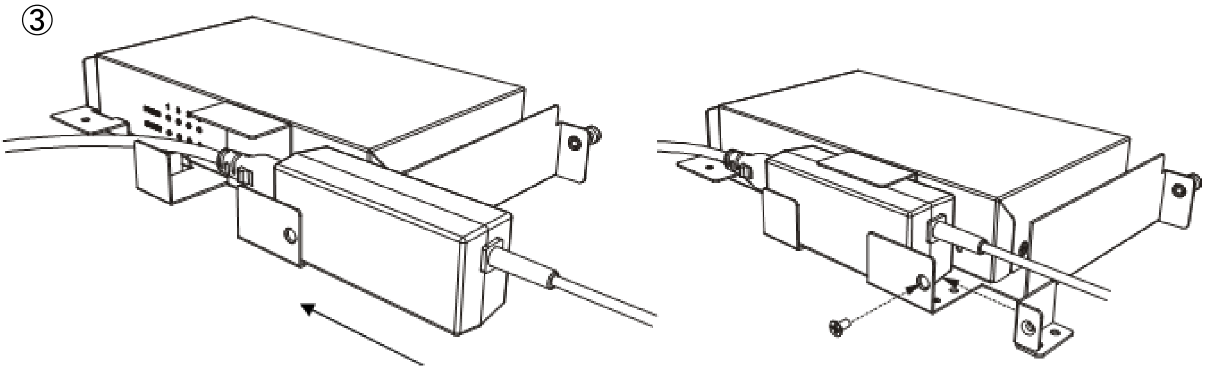
KVM ブラケット取外し図

②



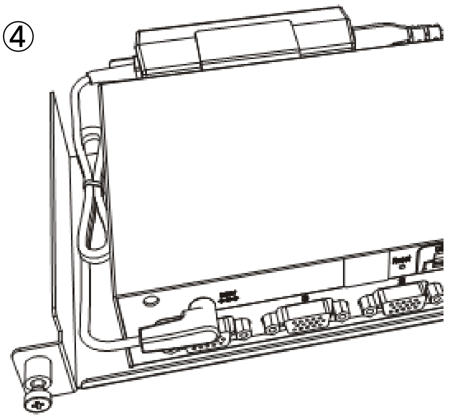
KVM 固定図

③



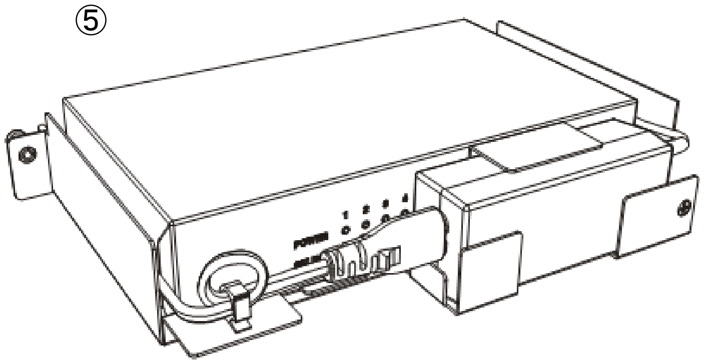
AC アダプタ固定図

④



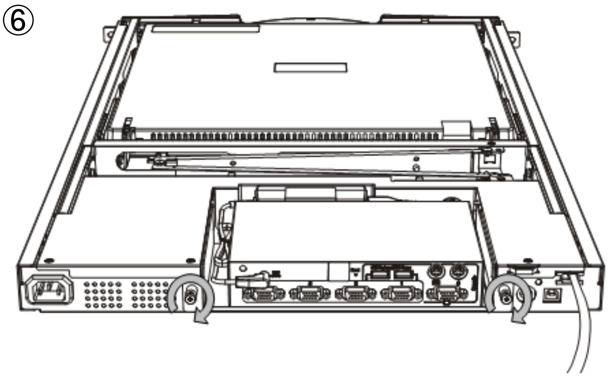
DC プラグ固定図

⑤



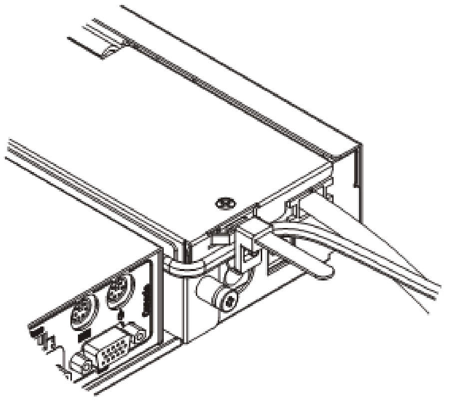
AC ケーブル固定図

⑥



KVM ブラケット固定図

⑦

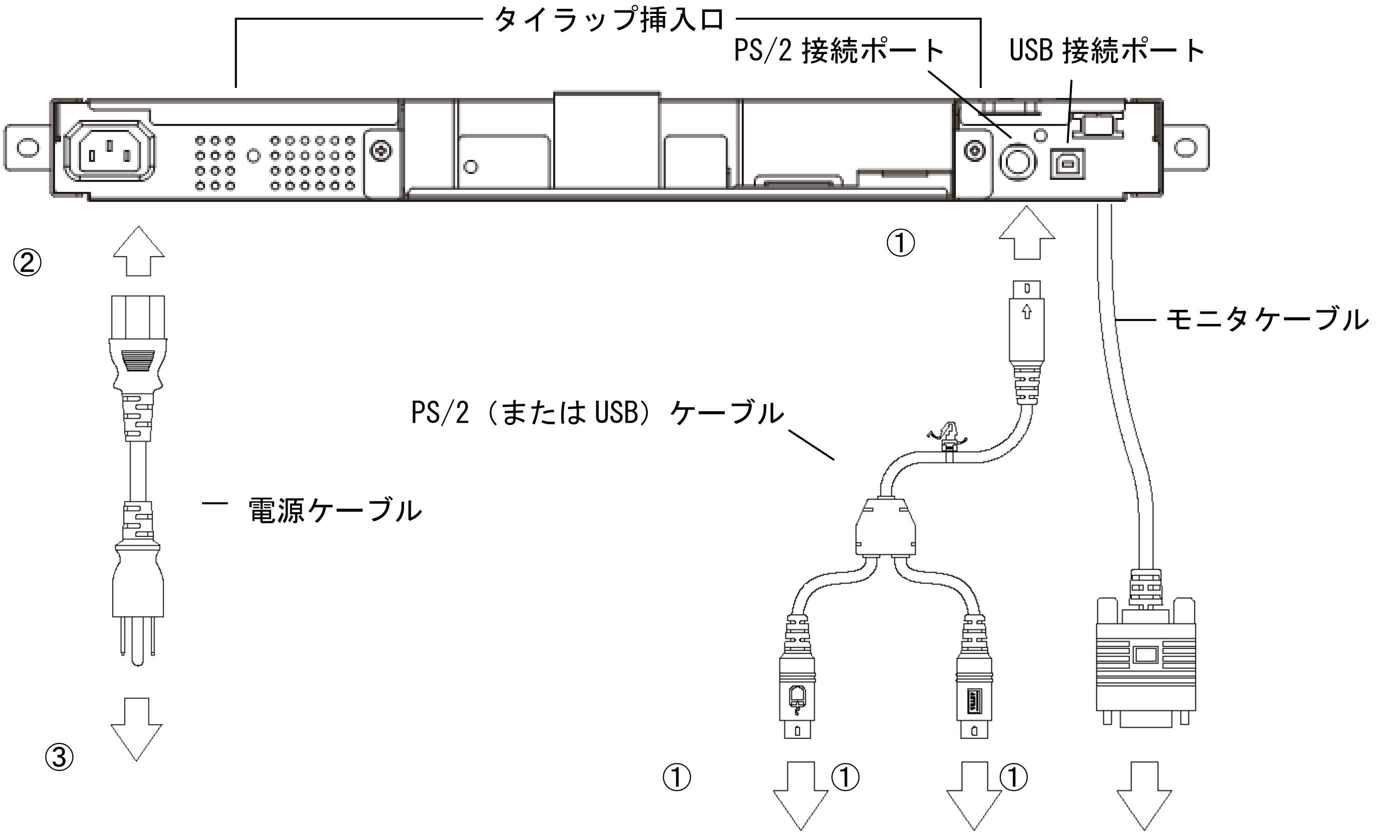


AC ケーブル固定図

4　ケーブルの接続と取り外し

4.1　ケーブルの接続

● 影響を受ける装置すべての電源プラグを電源コンセントから抜きます。
① PS/2(または USB)ケーブル、モニタケーブルをそれぞれの装置に接続します。
SUN (MD8)に接続が必要な場合はオプションケーブル(別売)をご購入下さい
② 電源ケーブルを本装置の電源ソケットに差し込みます。
③ 電源ケーブルをラックの電源コンセントに差し込みます。



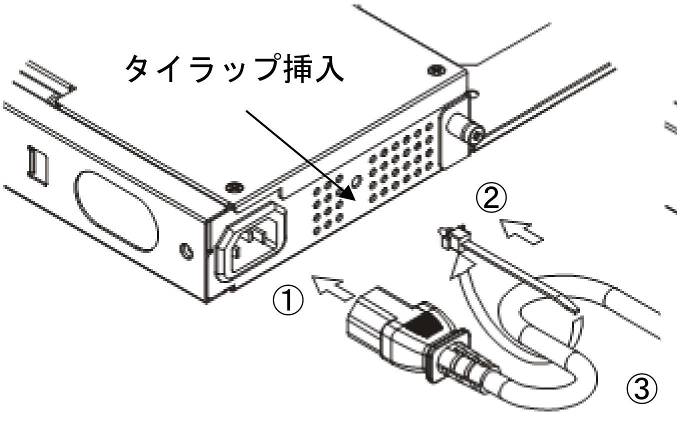
4.2　ケーブルの取り外し

影響を受ける装置すべての電源プラグを電源コンセントから抜いてから、各ケーブルを取り外してください。USB ケーブルの場合は、サーバが動作している状態でケーブルの取り外しが可能です。

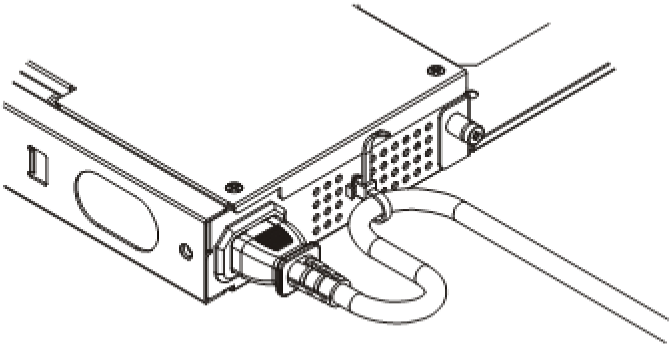
4.3　電源ケーブル抜け防止タイラップ取り付け

①電源ケーブルのコネクタを電源ソケットに差し込みます。
②タイラップをリア板金のタイラップ挿入口に差し込みます。
③電源ケーブルをひと巻きし、タイラップを締め込みます。

● 電源ケーブルを取り外す際は、タイラップのフックをつまみ、ロックを解除して引き抜いてください。



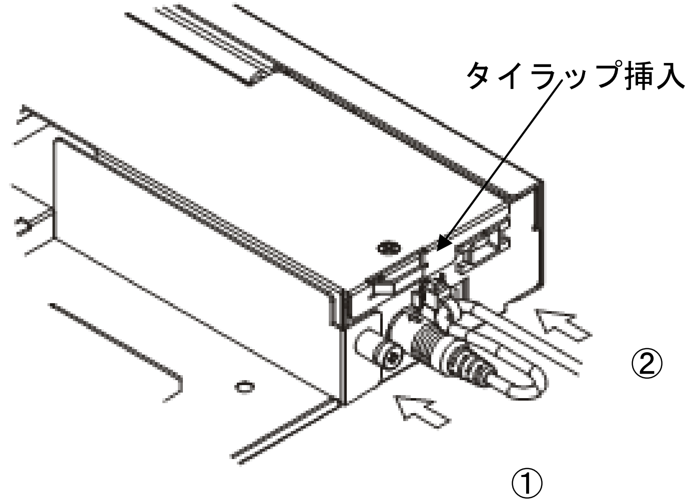
タイラップ取り付け手順図



タイラップ取り付け完成

4.4　PS/2(USB)ケーブル接続

①PS/2(USB)コネクタをソケットに差し込みます。
②タイラップをリア板金のタイラップ挿入口に差し込みます。



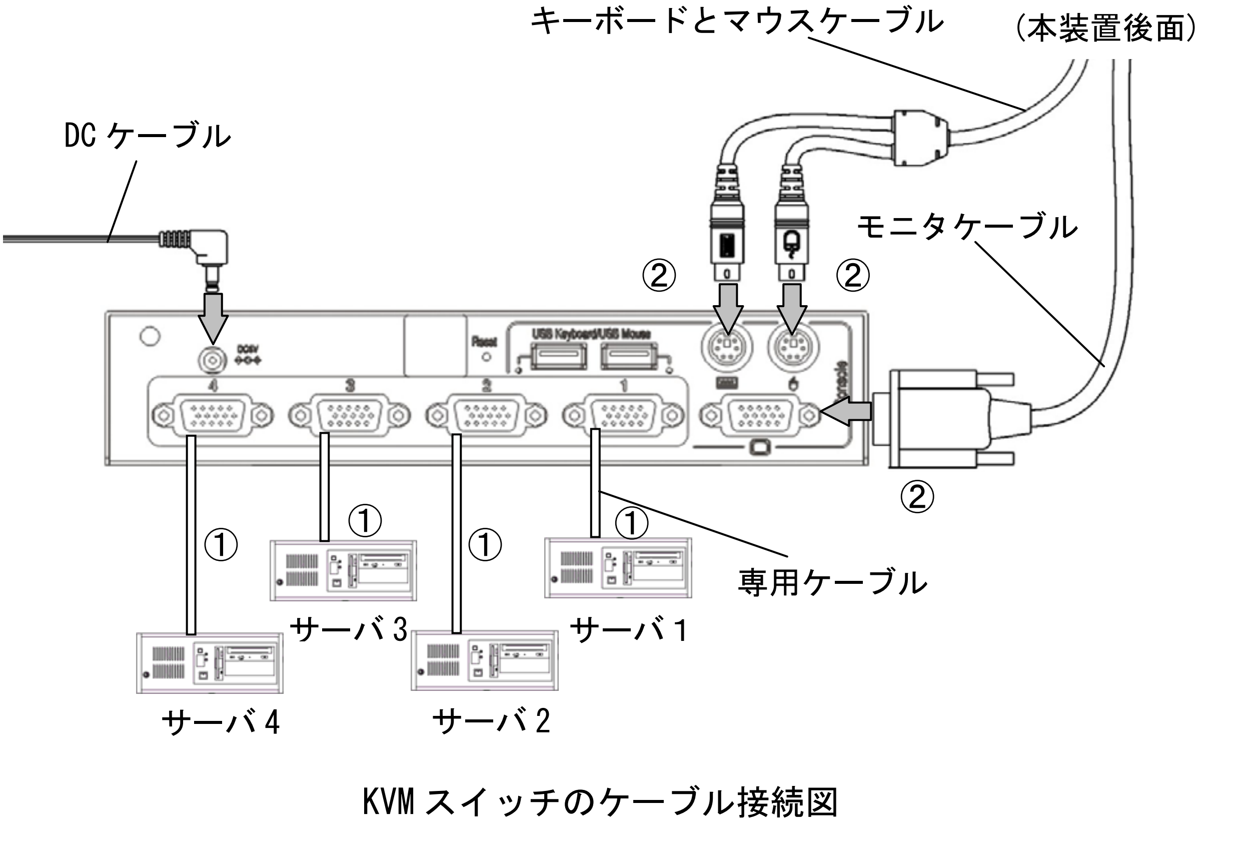
● PS/2(USB)ケーブルを取り外す際は、タイラップのフックをつまみ、ロックを解除して引き抜いてください。

4.5　ポートの接続（本装置後面にKVMスイッチがある場合）

注意	・ポートの接続、取り外し時は、「ケーブルの接続と取り外し」の注意に準じてください。また、ポートが影響を受ける装置の電源を切っておこなってください。 ・KVMスイッチの取扱説明書もあわせてよくお読みのうえ、正しくご使用ください。

ポート数のサーバが接続できます。

①サーバのキーボードポート（PS／2またはUSB）、マウスポート（PS／2またはUSB）、モニタポート(VGA)とKVMスイッチのポートを専用ケーブルで接続します。
②本装置のPS/2ケーブル（キーボード、マウス）、モニタケーブルをそれぞれCONSOLEのキーボード、マウス、モニタポートに接続します。
（マウスをキーボードより先に接続してください。）



KVMスイッチのケーブル接続図

5. 操作

⚠ 注意

本装置は、スライドレールがロックされるまでゆっくり手前に引き出してください。
ロックされていない場合、もたれ掛かると本装置は動いてしまいます。
スライドモジュールの引き出し、押し込み時やＬＣＤの開閉時などを実施する際には、手を挟まないよう十分注意して実施してください。

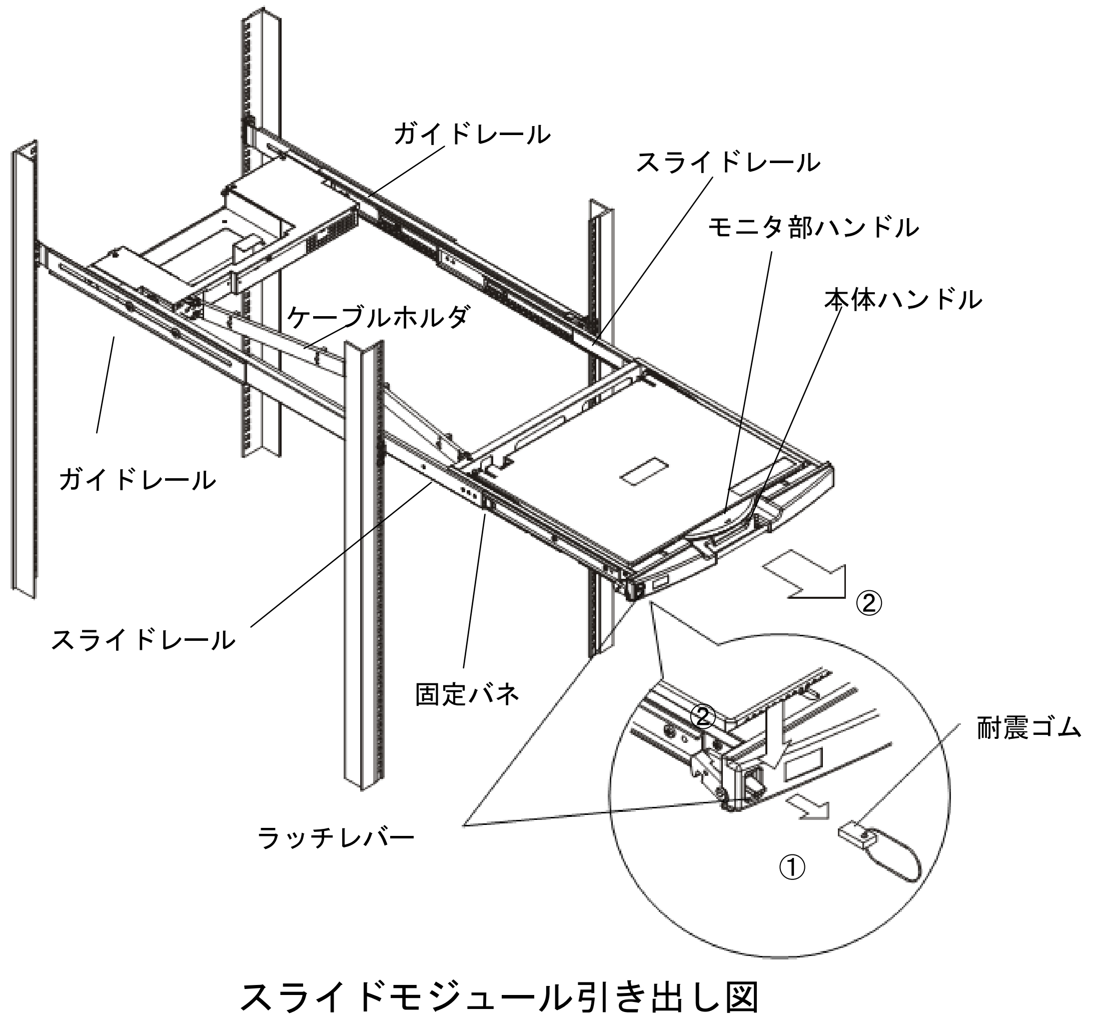
5.1 本装置の操作

① 耐震ゴムを引き抜いていない場合は、引き抜いてください。

② 本装置前面左側のラッチレバーを押し下げ､ハンドルを持って本装置を引き出します。
本装置本体は、カチッと音がするまで引き出してください。

Point

本装置が、前面部２本の取り付けネジでラックにきちんと固定されていることを確認してから、引き出してください。



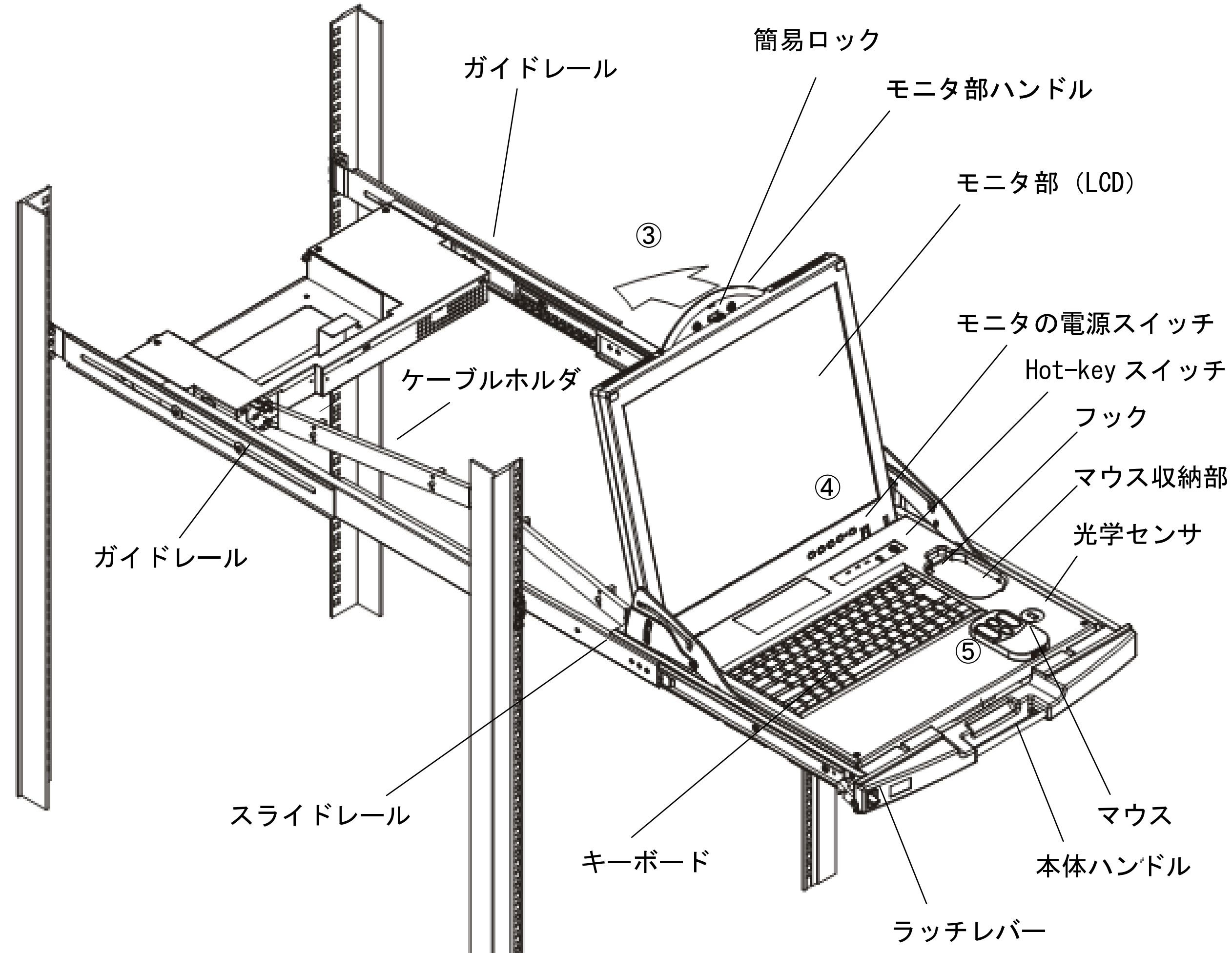
スライドモジュール引き出し図

③　ハンドルを持ちモニタを上側に開きます。

④　電源ボタンを押して、モニタの電源を入れます。
接続してあるサーバの電源を入れます。

⑤　マウス収納部からマウスの前方を少し上げて前側フックを外し、
マウスを取り出します。

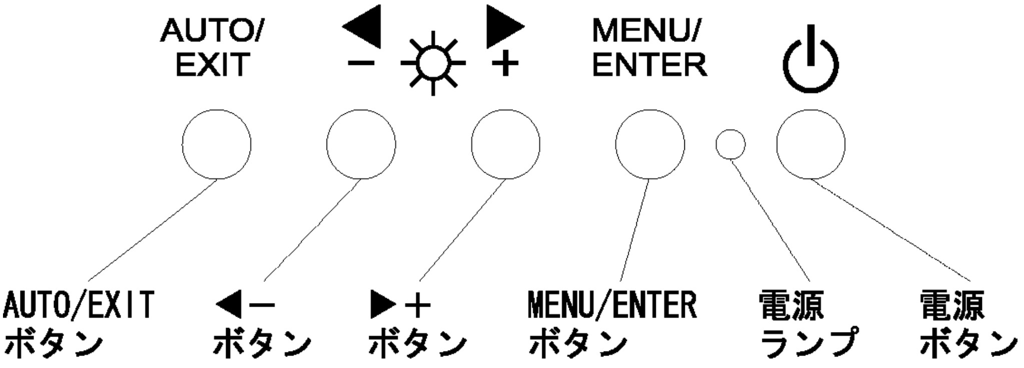
Point　モニタ部は完全に引き起こしてください。



モニタ部開閉図

5.2 モニタの調整

モニタ部には、1つのLEDと5つのボタンがあり、右から順番に説明します。



電源ボタン：　モニタの電源を入れるときに押します。また、電源が入っているときに押すとモニタの電源が切れます。

電源ランプ：　モニタの電源が入っているときに青色に点灯し、省電力状態の時は橙色に点灯します。モニタの電源が切れていると消灯します。

MENU/ENTERボタン：　メニュー画面の表示、調整項目の決定、設定値を保存する場合に押します。

▶ ＋ボタン：　右方を選択するときや値を増やす方向に変化させる場合に押します。

◀ －ボタン：　左方を選択するときや値を減らす方向に変化させる場合に押します。

AUTO/EXITボタン：　メニュー画面の消去、調節項目の取り消し、設定値の取り消し、自動調節する場合に押します。

Point

メニュー画面を表示させずに、▶＋、◀－ボタンを押すと画面の明るさ(BRIGHTNESS)を直接調整することができます。
メニュー画面を表示させずに、AUTO/EXIT ボタンを押すと自動調整(POSITION と FOCUS) を行います。

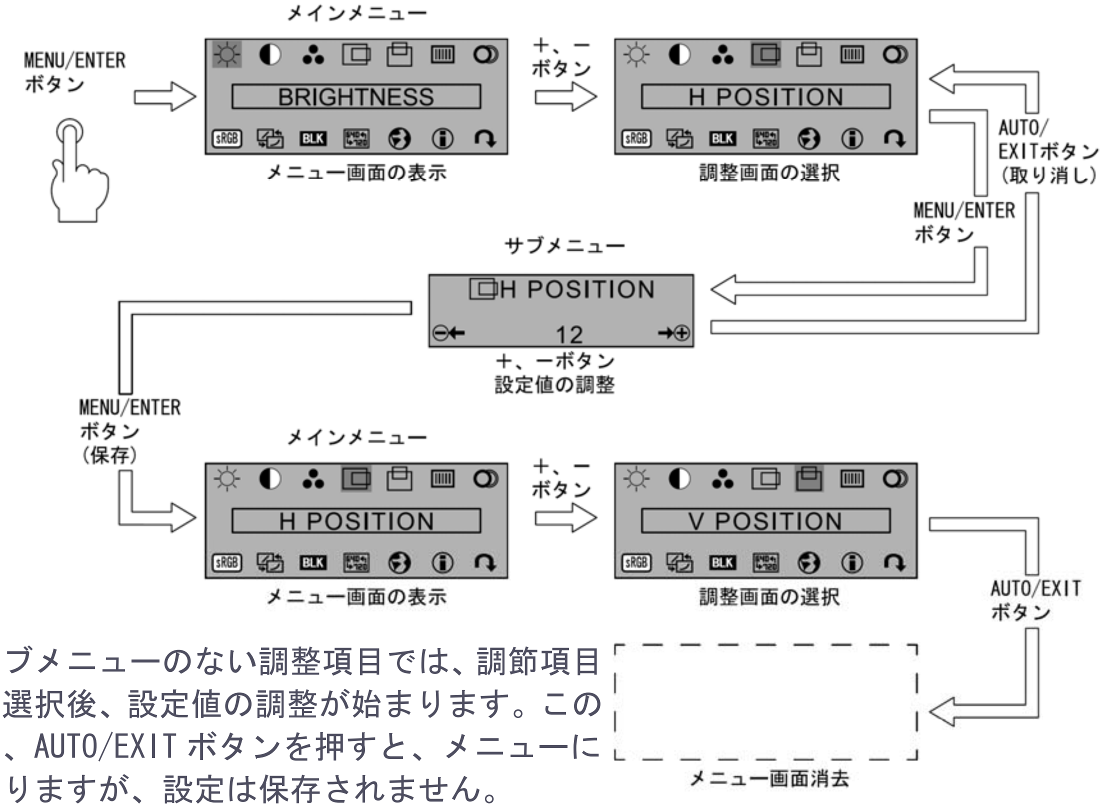
Point

画面のノイズは設定メニューのPhase 及び Clock の調整で除去できます。

⚠ 注意	本装置を引き出しているときやモニタ部を開いていて使用している場合に、強い力を加えると、ラックが転倒するおそれがありますので注意してください。 モニタ画面を強く押したり、硬いものでこすったり、磁石などを近づけないでください。破損の原因になります。

⚠ 注意	本装置を引き出した状態では、本機の角などにぶつけると危険ですので十分注意して操作してください。 本装置を使用しない場合や本装置以外のサーバや周辺機器など操作する場合には、本装置をラック内に格納することを推奨します。

5.3 基本的な調整方法



サブメニューのない調整項目では、調節項目の選択後、設定値の調整が始まります。この時、AUTO/EXIT ボタンを押すと、メニューに戻りますが、設定は保存されません。

ただし、メニュー画面を表示させずに、＋、　－ボタンを押した時の画面の明るさ(BRIGHTNESS)調整の場合は、設定値を変更する毎に保存されます。

調整項目

記号	英語表示	調整内容
	BRIGHTNESS	画面全体の明るさを調整します。
	CONTRAST	画面全体の濃淡の強さ(コントラスト)を調整します。
	COLOR	画面の表示色を調整します。固定値の設定や赤 / 緑 / 青の色合いを個別に設定できます。
	H POSITION	表示位置を左右に調整します。
	V POSITION	表示位置を上下に調整します。
	CLOCK	帯状（縦）のノイズが発生する場合に調整します。
	FOCUS	文字のにじみや画面の水平方向のノイズが発生する場合に調整します。
sRGB	SRGB	sRGB の ON/OFF の切り替えができます。
	PICTURE MODE	コントラストカーブの切り替えができます。中間調での表現を変えることができます。
BLK	BLACK LEVEL	黒色のオフセット基準を任意に設定できます。
640 720	TEXT MODE	DOS 画面表示時の解像度を設定できます。英語 DOS 時は、720 × 400 を選択してください。
	LANGUAGE	表示言語を変更します。 (英語、ドイツ語、イタリア語、フランス語、スペイン語)
	INFORMATION	現在表示されている解像度、垂直同期周波数及び各種調整項目（一部を除く）の設定値を表示します。
	RECALL	ご購入時の設定値に戻します。 ・ READJUSTING 全項目を戻します。 ・ GEOMETRY 表示している解像度（モード）の画面位置、クロック及びフォーカスを戻します。 ・ COLOR ブライトネス、コントラスト、黒レベル、及びカラー調整を戻します。

5.4 解像度とリフレッシュレート

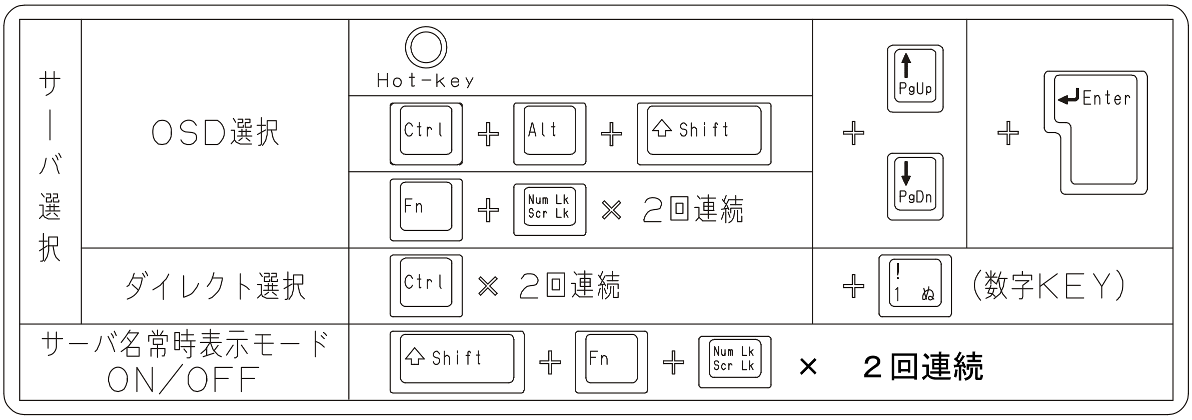
解像度	水平周波数(kHz)	垂直周波数(Hz)	モード
640 X400	31.5	70	VGA 400 LINE
640X480	31.5	60	VGA Standard
	37.5	75	VESA
	37.9	72	
720X400	31.5	70	
800X600	35.2	56	
	37.9	60	
	46.9	75	
	48.1	72	
1024X768	48.4	60	
	56.5	70	
	60.0	75	
1280X1024	64.0	60	
	80.0	75	
1152X900	61.9	66	Sunコンポジット
	71.8	76	
1280X1024	71.4	67	

LCD の表示に関する注意事項

- 電源投入直後やOS 起動時または終了時には画面の表示位置がずれたり、画面が点滅したり、乱れたりすることがありますが故障ではありませんのでそのままご使用ください。
- 1280 ×1024 以外の解像度もすべてフルスクリーン表示となります。
- 1280 ×1024 以外の解像度では、文字の輪郭がはっきり見えなかったり、細かなストライプの太さが揃わなかったりすることがあります。これは、擬似的に拡大表示（フルスクリーン表示）しているためであり、故障ではありませんのでそのままご使用ください。
- 画面上の一部に点灯しないドットや常時点灯するドットが存在する場合がありますが、液晶ディスプレイの特性であり、故障ではありませんのでそのままご使用ください。

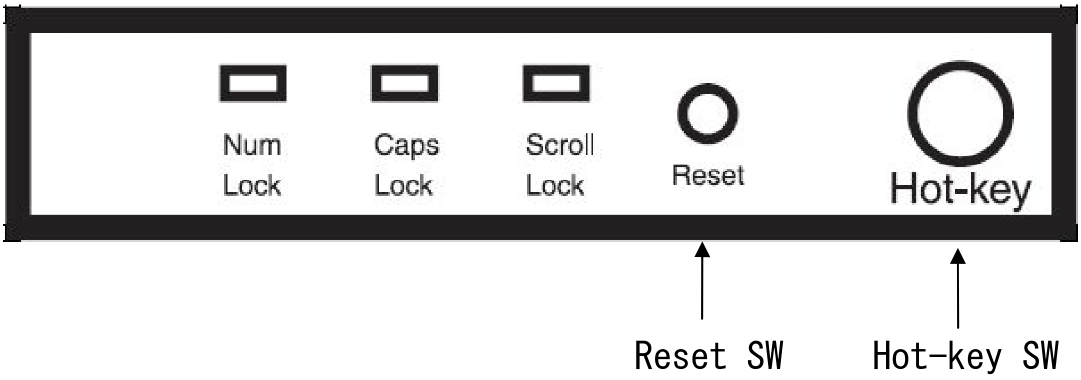
5.5 Hot-Key SW の操作

サーバ切替え用に OSD 表示をさせる場合に、本 SW を押した後離します。

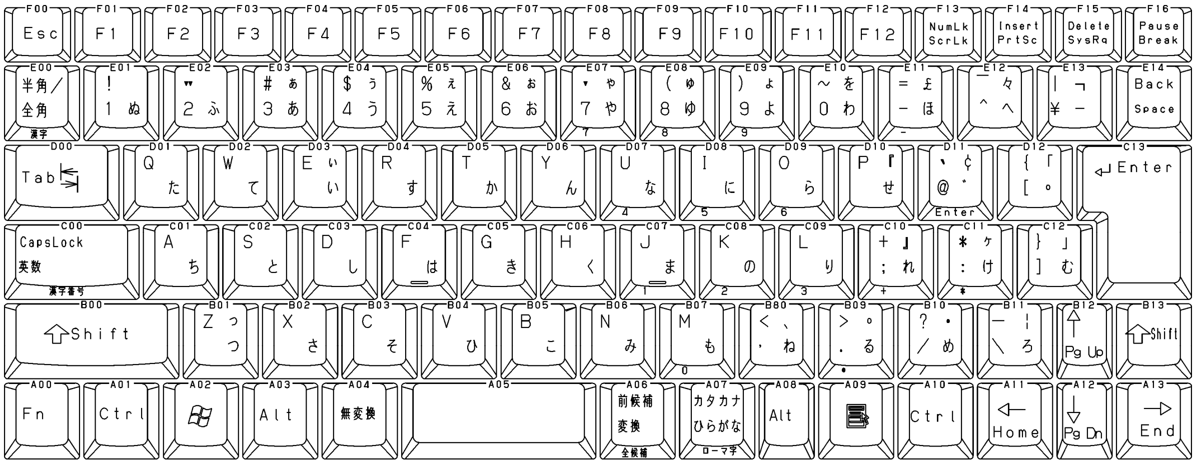


5.6 キーボードの操作、LED 表示及び Reset SW

Num Lock LED　：Num Lock 有効(LED On)/ 無効(LED OFF)
Caps Lock LED　：Caps Lock 有効(LED On)/ 無効(LED OFF)
Scroll Lock LED：Scroll Lock 有効(LED On)/ 無効(LED OFF)
Reset SW　：通常は使用しません。万が一、サーバの選択が出来ない場合やキーボード、マウスが操作出来なくなった時に使用します。金属製のピン等の先で軽く押してください。
Hot-key SW　：サーバを切替えるための OSD(On Screen Display)表示を出す時に押します。



Fn キーとの組み合わせにより、省スペースながらフルキーボードと同等の操作が可能です。



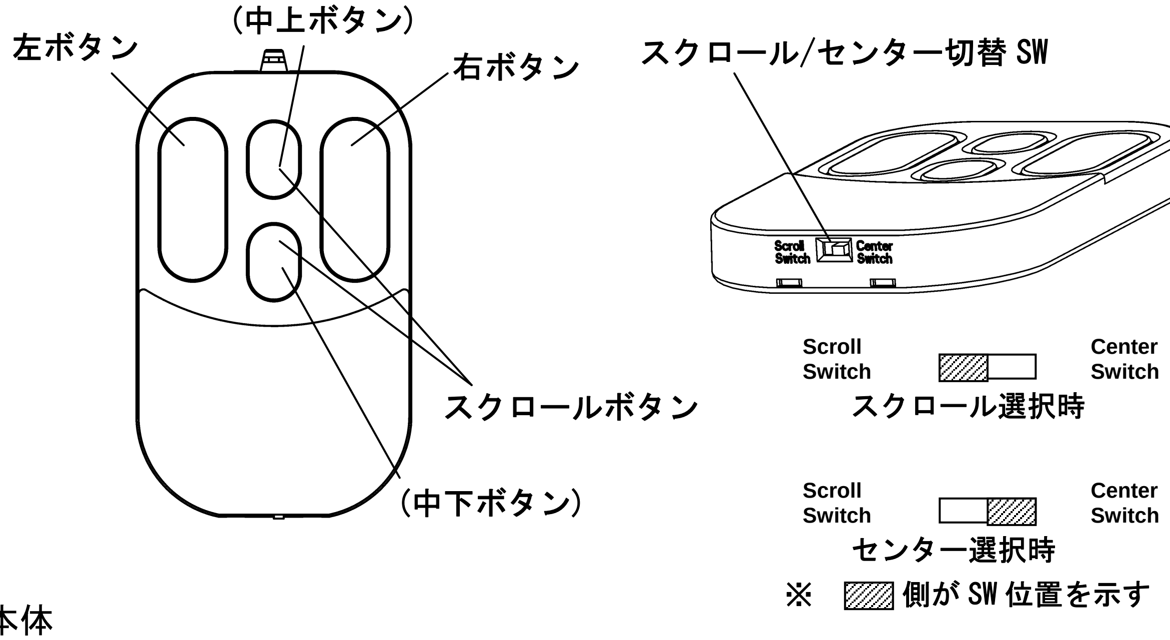
Point

<Pg Up>キーを押す場合
<Fn>+<↑>キーを押してください。

5.7 マウスの操作

⚠ 注意

・マウスは長時間使用すると手や指の健康に影響をおよぼすことがあります。ときどき休憩をとってご使用ください。
・故障の原因になりますので、次のことはおこなわないでください。
　ぶつけたり、落とさない。
　重いものをのせたりしない。
　濡れた手で操作したり、水などにつけない。
　分解、改造などしない。
　車の中や直射日光のあたる場所に置かない。
　ほこりの多い場所や高温多湿な場所で使わない。
・光学センサは、サーバ本体の電源が投入されているときに点灯します。強い光を発する場合がありますので、光学センサはのぞきこまないでください。



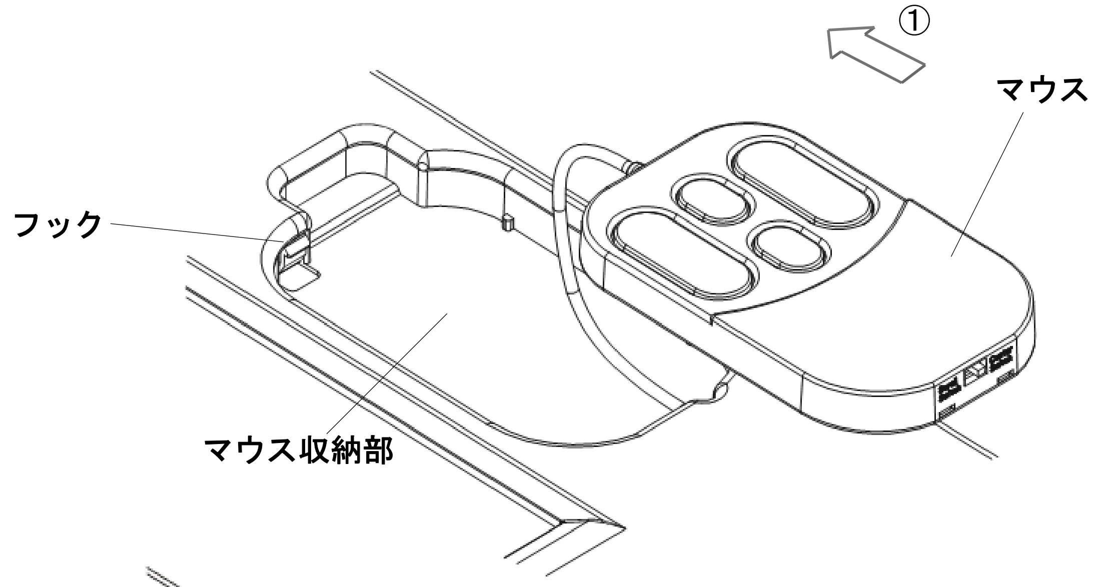
- 本体
  動かすとモニタ画面のポインタ（矢印）が移動します。
- 左ボタン
  通常、指定や選択する場合に押します。
- 右ボタン
  ショートカットなどを表示する副ボタンです。
- スクロール/センター切替 SW
  スクロール選択時：「中上ボタン」、「中下ボタン」をスクロールボタンとして使用できます。
  センター選択時　：　マウスの「中上ボタン」が「中ボタン」として使用できます。

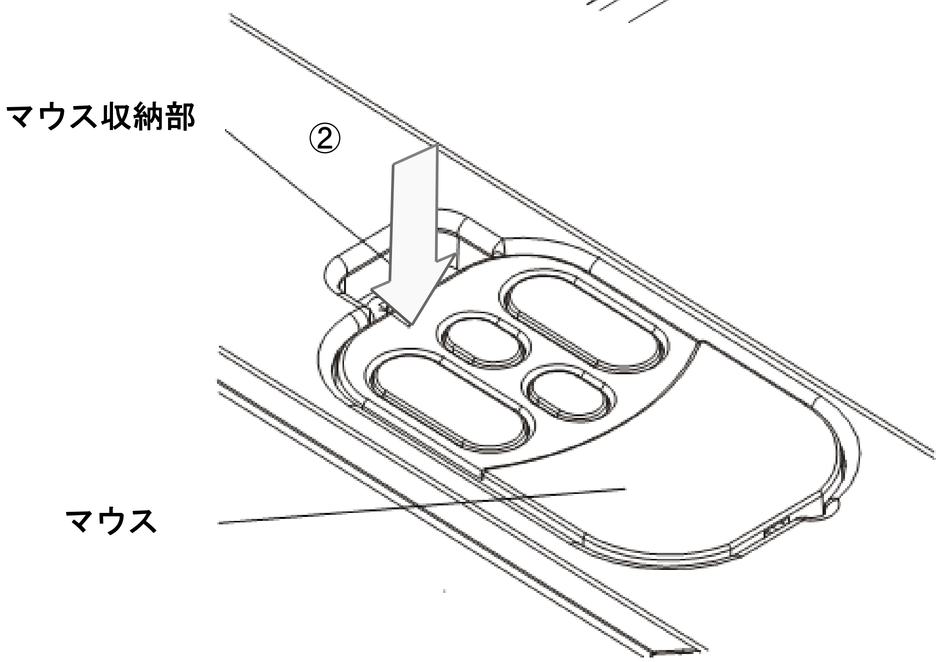
センター選択時には、「中下ボタン」は機能しません

5.8 マウスの収納方法

注意	・LCD を閉じる前に必ずマウスをマウス収納部に収納してください。 ・ ケーブルは必ずマウスの下になるように収納してください。 ・ ケーブルを強く引っ張らないでください。

① ケーブルがマウスの下なるようにして、マウス収納部に移動します。
② マウスボタンが上になるようにして、マウス先端部を押しマウス収納部のフックをかけます。





5.9 KVM スイッチをご使用の場合について

異なるタイプのＣＲＴ コントローラを備える複数のサーバで使用すると、設定が同じでも画像の位置が違うことがあります。一般に解像度とリフレッシュレート（垂直周波数）はすべてのサーバで同じであるため、これらの設定に対応するパラメータの１種類のセットだけが、画面に対して記憶されます。画面上でずれた画像を修正すると、別のサーバでの表示が影響を受けることがあります。
ずれた表示を修正するには、次の設定を変更してください。

① 画像が正しく表示されないサーバのリフレッシュレートを別の値に設定します。
② 最適な画面表示を選択し、その設定を保存します。

一般に解像度に対して複数のリフレッシュレートを設定できるため、画面に対して複数のオプションを利用できます。

5.10 本装置の格納

モニタとキーボードが必要ない場合は、本装置をラックに格納することができます。

Point

・装置本体の出し入れはゆっくりとおこなってください。

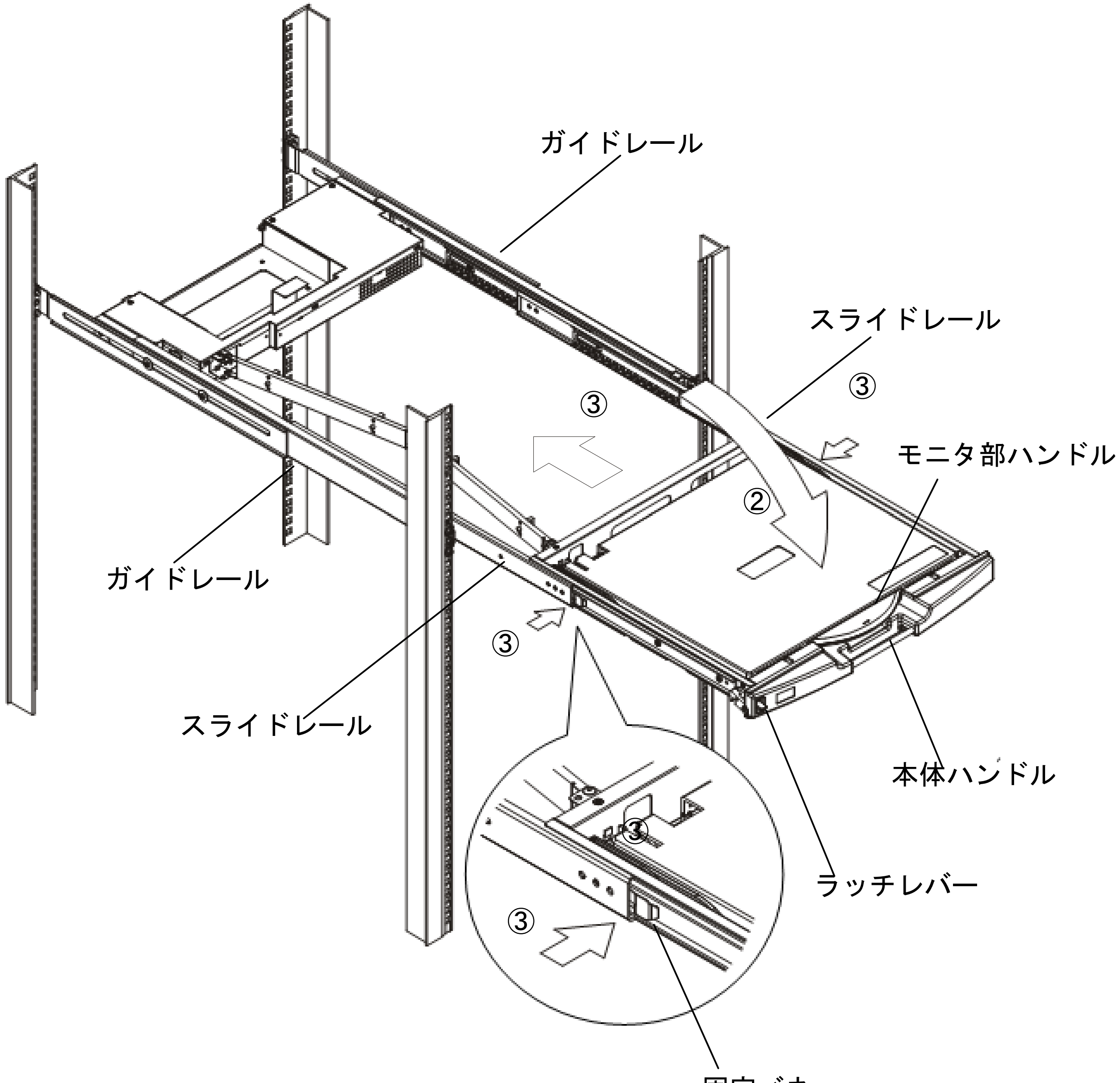
①マウスを収納します。［6.8項マウスの収納方法参照］
モニタの電源ボタンを押して、モニタの電源を切ります。
②モニタ部を閉じます。簡易ロックが掛かったことを確認します。
③スライドレール両側の固定バネを押し、装置本体を少し押し込み、ロックを解除します。この時スライドレールが一緒に動いた場合、ハンドルを持ちレールを完全に引き出した後、再度ロック解除操作を繰り返してください。
ロックが解除されたら、装置本体をラックに押し込みます。ラッチレバーが掛かったことを確かめます。

⚠ 注意

・本装置を格納する場合、ガイドレールやスライドレール、装置本体に指や手を挟まないように注意してください。スライドレールを持ったまま本装置を押し込むと指を挟むことがあります。
・ラッチレバーが掛かっていないとラックを動かしたときに、本装置が出てくる場合がありますので、格納する際にはラッチレバーが掛かるまで完全に押し込んでください。
・マウスが収納されていないとモニタ部はきちんと閉じることができません。
・簡易ロックは、ＬＣＤを閉じ倒す際、完全に閉じたことを感触で確認するためのロックであり、輸送等の振動・衝撃に対し、ＬＣＤを閉じた状態を保持できるものではありません。

Point

・モニタをご使用にならないときは、省電力のため電源スイッチ（モニタ電源）を切ることを推奨します。本製品の電源スイッチを切っても、サーバ電源が入っていることで、キーボード、マウスへは電源が供給されます。
・本装置のモニタを完全に閉じることで自動的にモニタ電源が切れます。



装置本体押し込み図

6. 本装置のお手入れ

⚠ 注意

モニタの電源を切り、電源ソケットから電源プラグを抜いてください。
研磨剤を含む清掃剤やベンジン、シンナーなどの有機溶剤、消毒用アルコールは使用しないでください。
水や洗剤、スプレー式のクリーナーを直接かけないでください。液が内部に入ると、誤動作や破損の原因になります。

装置本体とモニタの筐体を乾いた布で拭いてください。汚れがひどいときには、水に浸したやわらかい布をよく絞って拭きとってください。
ほこりはやわらかいブラシなどで払ってください。

キーボードとポインティングデバイスを清掃するには、殺菌した布を使用してください。

モニタ画面は、ガーゼなどの乾いたやわらかい布で軽く拭いてください。ほこりはやわらかいブラシなどで払ってください。

7. 技術仕様

型名（名称）： FD-5300MTシリーズ

●電気仕様

定格電圧範囲： 100V AC
周波数： 50／60Hz
定格電流： 100V/0.6A
消費電力： 21.9W以下

●外形寸法

	(W)	×	(D)	×	(H)
本体部：					
(1)スライドレール縮小時	445.4mm	×	680mm	×	43mm
(2)スライドレール伸張時	445.4mm	×	1210mm	×	43mm
(3)(2)＋LCD 引き起こし時	445.4mm	×	1210mm	×	370mm

●質量 12.0kg

●環境条件

温度： 使用時 10 － 35 ° C
（使用時の結露は避けてください。）
サーバの環境条件に準ずる

●モニタ

パネルタイプ： 17 インチ、TFT カラー液晶
解像度： 最大水平1280（ドット）×垂直1024（ライン）
ドットピッチ： 0.297 ×0.297mm
リフレッシュレート： 最大 75Hz
表示色： 最大 1,677万色
輝度： 250cd ／m^2
コネクタ： ミニD-SUB 15 ピン（アナログRGB ）
消費電力： 最大30W 以下
スタンバイ時 2.0W 以下
バックライトの電源OFF 時 1.0W 以下

●キーボード

配列：	日本語
キー数：	87 キー
コネクタ：	ミニDIN 6 ピン（PS ／2 ） または USB　シリーズ　A　プラグ

●オプティカルリフレクトマウス

方式：	オプティカル方式
SW数：	4 ボタン
コネクタ：	ミニDIN 6 ピン（PS ／2 ） または USB　シリーズ　A　プラグ

● ガイドレール(別売)

型　名	ラック取り付け穴	備　考
NC14003-T591-R	M6 タップ有り	M6 ネジ添付　前後からの取り付け 43mm(W)×600～865mm(D)※1×44mm
NC14003-T595-R	長穴タップなし	M5、M6 ネジ添付　サイドからの取り付け 43mm(W)×440～750mm(D)※1×44mm
NC14003-T596-R	長穴タップなし	M5、M6 ネジ添付　前後からの取り付け 43mm(W)×600～900mm(D)※1×44mm
NC14003-T593/T2-R	長穴タップなし (M5 ﾈｼﾞ専用)	サイドからの M5 ネジ取り付け専用。 ﾌﾛﾝﾄﾌﾞﾗｹｯﾄ(白,1U ｻｲｽﾞ,2 穴ﾀｲﾌﾟ) +皿ﾈｼﾞ(M5)×4 個＋M5 ﾈｼﾞ 2 本添付 43mm(W)×420～680mm(D)※1×44mm
NC14003-T596/N-R	長穴タップなし	T596＋ﾌﾛﾝﾄﾌﾞﾗｹｯﾄ(白,1U ｻｲｽﾞ,中央 1 穴 ﾀｲﾌﾟ)+ｽﾍﾟｰｻ＋皿ﾈｼﾞ(M5)×4 個 ＋M5 ﾈｼﾞ 2 本添付 43mm(W)×600～865mm(D)※1×44mm

※1：無段階で調節可能

● ケーブル

型格	接続端子	添付品及び備考	
NC14000-B870/20-R	PS/2	2.0m(専用 PS/2 ケーブル)	製品に添付
NC14000-B880/20-R	USB	2.0m(USB Type-A×1、USB Type-B×1)	製品に添付
NC14000-B890/20-R	SUN※2	2.0m(専用 SUN ケーブル)	(別売)

※2：FD-5300MT シリーズのみ対応。

8. トラブル対策

8.1　画面が表示されない

症状	考えられる原因	対処方法
電源ランプが消灯している。	電源ケーブルが正しく接続されていない。または奥まで確実に接続されていない。	電源ケーブルを正しく奥まで確実に接続してください。
	電源が入っていない	電源ボタンを押してください。
電源ランプがオレンジ色に点灯している。またはMENU/ENTERボタンを押すと「POWER SAVING」のメッセージが表示される。	サーバがスタンバイ状態になっている。	キーボードのどれかのキーを押すかマウスを動かしてください。スタンバイ状態が解除されます。
	モニタケーブルがサーバ本体に、正しく接続されていない。	サーバ本体にモニタケーブルを正しく接続してください。
電源ランプが点灯するが、画面が表示されない。 場合によっては以下のメッセージも表示される。 「OUT OF RANGE H:***kHz V: H:***kHz SEE USER'S MANUAL」 「NO SYNC SIGNAL SEE USER'S MANUAL」	標準表示仕様以外の解像度とリフレッシュレートになっている。	サーバ本体の設定を標準表示仕様の解像度とリフレッシュレートに変更してください。
	サーバ本体より後に本製品の電源を入れた。	サーバ本体と同時またはそれ以前に本製品の電源を入れてください。
	ディスプレイケーブルが、サーバ本体に正しく接続されていない。	サーバ本体にディスプレイケーブルを正しく接続してください。

8.2　画面調節ができない

症状	考えられる原因	対処方法
AUTO/EXITボタンによる自動調整ができず、以下のメッセージが表示される。 「AUTO ADJUSTMENT FAILED SEE USE'S MANUAL」	画面全体が極端に暗い色に設定された状態で自動調整を行われた。	表示画面全体を出来るだけ白画面にして、AUTO/EXITボタンを押して自動調整を行ってください。
「UNSUPPORTED MODE SEE USE'S MANUAL」	標準表示仕様以外の解像度とリフレッシュレートになっている。	メニュー画面のインフォメーションにより、現在表示されている解像度とリフレッシュレートを確認し、サーバ本体の設定を標準表示仕様の解像度（モード）に変更してください。

8.3 画面がおかしい

症状	考えられる原因	対処方法
格子状の表示画面がちらつく。	フォーカスが合っていない。	31ﾍﾟｰｼﾞを参照願います。
縦帯状の縞模様が見えることがある。	画面の調節が適切でない。	31ﾍﾟｰｼﾞを参照願います。
表示がはみ出る。 または、画面いっぱいに表示されない。	画面位置の調節が適切でない。	31ﾍﾟｰｼﾞを参照願います。
	標準表示仕様以外の解像度（モード）になっている。	サーバ本体の設定を標準表示仕様の解像度（モード）に変更してください。
画面が消えることがある。	電源ケーブルが奥まで確実に接続されていない。	電源ケーブルを奥まで確実に接続してください。
文字の太さが場所によって異なる。	フォーカス、クロックの調整が適切でない。	31ﾍﾟｰｼﾞを参照願います。
	1280X1024より低い解像度になっている。	デジタル処理で擬似的に拡大処理しているので文字の太さが異なる場合があります。 最適な画面するには「画面のプロパティ」で解像度を1280X1024に設定してください。

8.4 オプティカルリフレクトマウス、キーボードが動かない

症状	考えられる原因	対処方法
キーボードが動かない	キーボード/マウスケーブルが正しく接続されていない。	キーボード／マウスケーブルを正しく接続してください。
	キーボードが認識していない	Reset SWを押してください。 それでも認識しない場合、11ﾍﾟｰｼﾞにしたがって、再度、ケーブル接続を行ってください。
マウスが動かない (カーソル、スイッチ)	マウスが認識していない。	
	キーボード/マウスケーブルが正しく接続されていない。	キーボード／マウスケーブルを正しく接続してください。

設定時におけるLCD表示の注意事項

システム設置時、あるいは接続するサーバ変更時に接続するサーバの種類により、表示位置などが多少ずれることがあります。その場合は、画面全体をできるだけ白画面にしてから、AUTO/EXITボタンを押して画面の自動調整をおこなってください。

＊ 自動調整後、下記症状がでる場合は下記「対処方法」により調整作業をお願いします。

＊ 下記症状はLCDパネルの不良ではありません。

症状	考えられる原因	対処方法
格子状の表示画面がちらつく。	フォーカスが合っていない。	FOCUSを調整してください。
縦帯状の縞模様が見えることがある。	画面サイズ（クロック）の調整が適切でない。	CLOCKの調整をしてください。その後FOCUSも調整してください。
文字の輪郭がはっきり見えない箇所がある。	フォーカスが合っていない。	FOCUSを調整してください。
黒画面にサワサワノイズが見える。	黒レベルが合っていない。	BLACK LEVELを調整してください。

＊ メニュー画面表示方法：MENU/ENTERボタンを押して対処メニュー（OSD）を選択してください。

【対処メニューの機能内容】

メニュー画面の表示	機能
CLOCK	帯状（縦）のノイズが発生する場合に調整します。
FOCUS	文字のにじみや画面の水平方向のノイズが発生する場合に調整します。
BLACK LEVEL	画面にサワサワとしたノイズが発生する場合に調整します。
RECALL	ご購入時の設定値に戻します。 READJUSTING ＝ 全項目を戻します。 GEOMETRY ＝ 表示している解像度の画面位置、クロック、フォーカスを戻します。 COLOR ＝ ブライトネス、コントラスト、黒レベル、カラー調整を戻します。

SERVIS™ Drawer Liftup 17inch LP Series [FD-5300MT]

取扱説明書

発行日　　　2012 年　11 月　第 2 版発行

発行責任者　富士通コンポーネント株式会社

Printed in Japan

- 本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- 本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。

この説明書は再生紙を使用しています。

NC14012-L531-02
121113